

外国語学部 (英米) [英語]

- 1-C 2-C 3-A 4-D 5-B 6-C 7-D 8-B 9-B
 10-C 11-C 12-D 13-A 14-B 15-A 16-A 17-B 18-C
 19-D 20-D 21-D 22-A 23-B 24-B 25-B 26-C 27-D
 28-A 29-B 30-A 31-B 32-A 33-B 34-D 35-A 36-C
 37-C 38-D 39-A 40-D 41-A 42-B 43-B 44-C 45-C
 46-D 47-B

リスニング

- 49-C 50-C 51-D 52-B 53-A 54-A 55-C 56-B 57-A
 58-C 59-B 60-C 61-D 62-B 63-D 64-A 65-C 66-B
 67-D 68-A

英語 外国語学部 (英米)

<全体分析>		試験時間	90分
解答形式 すべてマーク式			
分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・ <u>変化なし</u> ・やや増加) 難易 (易化・ <u>変化なし</u> ・難化)			
出題の特徴 特になし。			
その他トピックス 特になし。			

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
A I	文法・語法	文法・語法・熟語	標準的な文法問題と、動詞・名詞・形容詞・前置詞などの語法が出題される。12, 14, 16は動詞の語法、11, 15, は名詞の語法を問う問題。	標準
A II	読解総合 (長文内容一致・他)	「パラシュート」	「パラシュートがどのようにして現在のものになったか」について述べた文章。23は本文をよく読まないといっかかる問題、27は挿入する文の中の代名詞 (ここでは this) に注目するのがコツ。	標準
A III	英語総合	中文空所補充	「1万時間理論」文脈と、動詞・名詞などの語義・語法を問う問題。38. は比較級強調語の far と much の違いを問う、やや難の問題。	標準
AIV その2	聞き取り	会話・長文形式	Aは会話に対してそれぞれ1問ずつ内容一致の問題が出される (10問)。Bは会話に対してそれぞれ2問ずつ内容一致問題が出される (10問)。A・Bいずれも長文が出される場合もある。放送は1回しか読まれない。会話や長文の難度はそれほど高くないが、選択肢が紛らわしいことがあるので注意が必要。	標準

注: 区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」
 難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

A Iは標準的な文法と、動詞・名詞・形容詞・前置詞などの語法、熟語が出されるが、こうした知識を問うものは本番までの地道な努力が大きな差となって現れるので、しっかり勉強しておくこと。A IIの長文読解では、内容的に難度の高いものも出ているので、難しい内容の英文に慣れておくこと。A IIIの中文空所補充は、文法・語法の知識をつけることと、文脈に合う選択肢を見つける練習が必要だ。また、リスニングは90分のうちのおよそ20分を占め、残りの70分で筆記部分を書くことになるため、時間配分に注意したい。リスニングは日ごろからNHKのラジオ・テレビ講座などで常に耳を鍛えること。英検のリスニング対策問題集(2級・準1級用)も効果的だ。